

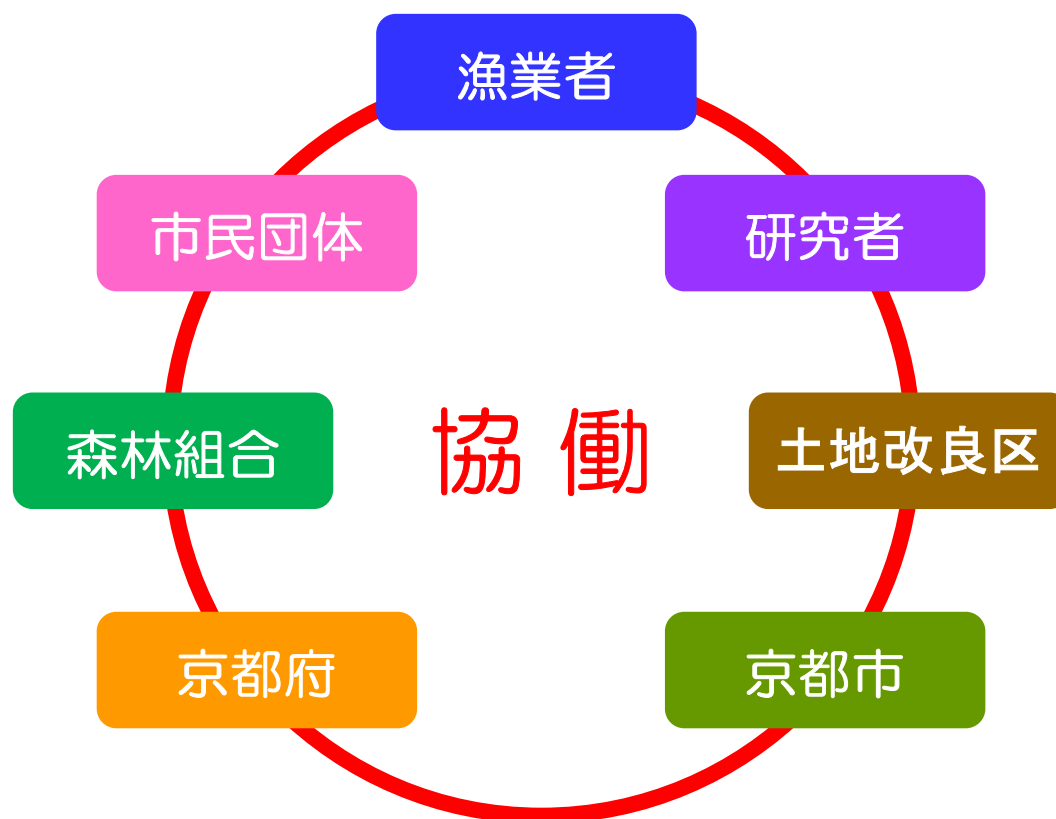
目指すは
自然の恵みを活かし・気遣う暮らし



撮影 中筋祐司

京の川の恵みを活かす会

設立：平成23年5月17日設立



活動開始時点の活動場所 淀川水系 鴨川

- 祇園など京都の中心部を流れる川で、生活用水や灌漑用水として古くから京都のまちの人々の暮らしを支えてきた。
- また、古くから神聖な川として神事が行われたり、夏の風物誌である納涼床があるなど、今もなお、地域住民や観光客など多くの人々に親しまれ、賑わっている。

淀川水系鴨川



鴨川の現状

大きな問題～その1～ 数多くの堰堤による魚の移動阻害

- 江戸時代初めに石垣の護岸ができ、川がほぼ直線化
- 昭和10年に大水害がおき、昭和11～22年にかけて川底を掘り下げるなど大規模改修が行われ、多くの落差工が整備された。



大きな問題～その2～

川の単調化 「瀬・淵の喪失」による生物多様性の劣化

- 治水目的での砂州の除去
 - 地域住民への配慮としての定期的な河床整正
- 河川環境が単調化し，生物が暮らせない



大きな問題～その3～

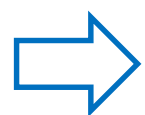
鴨川の生物環境を守ってきた漁協の経営悪化

- ・ 河川環境の変化に伴う漁業生産量の低下
- ・ 遊漁者の減少
 - 放流事業の継続が経済的に困難
 - 増殖に対する方向性の転換が必要



活かす会の活動方針

- ① 天然アユなどの多くの生き物たちの生息環境を保全し、自然の恵みとして利活用できるようにする



魚道づくり

棲みかづくり

放流に頼らず
天然資源をふやそう！

- ② 子どもたちや流域住民の方に地球温暖化の防止や生物多様性の保全など、自然環境を気遣う暮らしの啓発を進める

- ③ 水産の多面的機能を発揮させることによって、「自然の恵みを活かす生き方」を発信する



ネットワークづくり

啓発普及資材づくり

簡易魚道づくり

- ・ 河川管理者の許可を得て、自分たちで製作・設置。

- ・ 簡易魚道のデザインのポイント

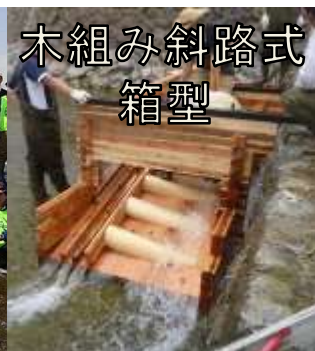
- ① 手づくりできるか？
- ② 増水に耐えるか？
- ③ アユがつかうか？

構造物の躯体に
アンカーボルト
は打ち込まない



- ・ 増水に耐えるか ・ 簡易魚道は全ての流量に対応できない。

⇒ アユの遡上が多い「平水時よりやや流量が多い」時に設置！！



木組み階段式箱型魚道のつくり方

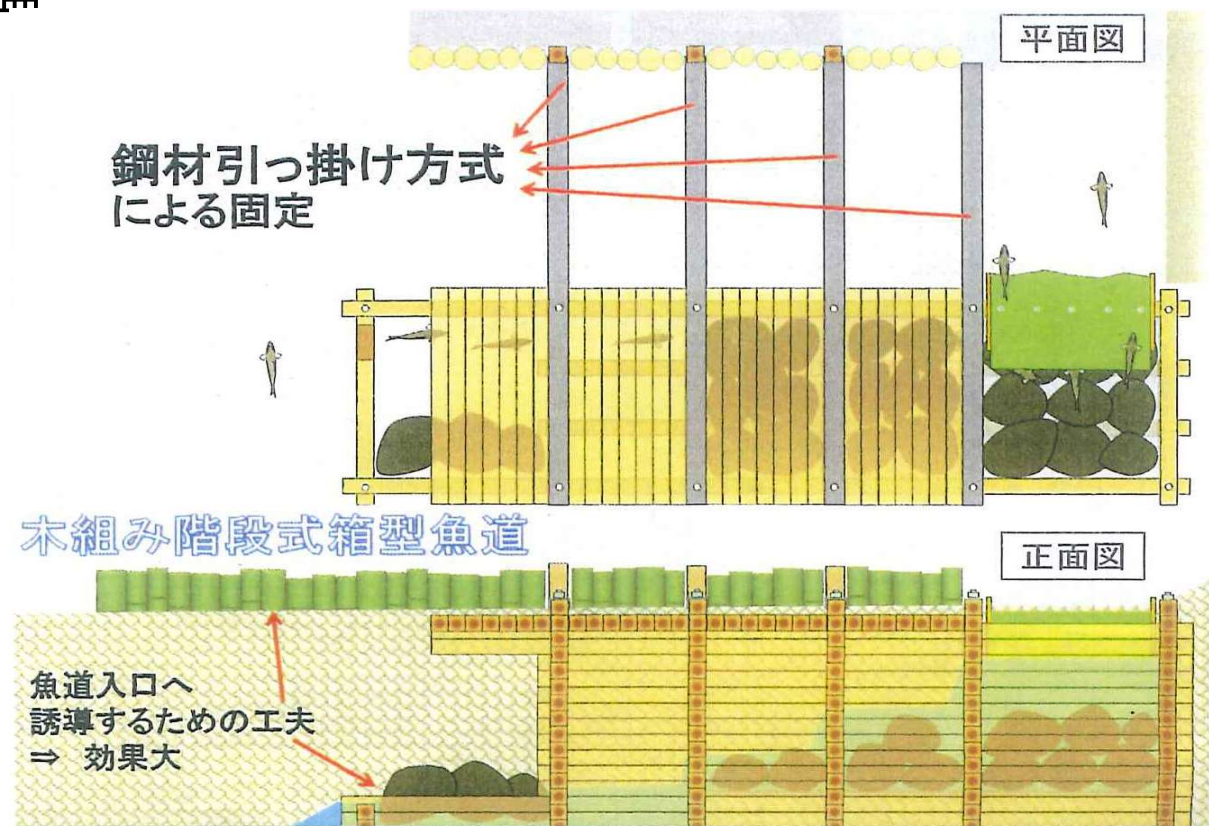
【設置場所と魚道の考え方】

- ・ 段差が大きい落差工に設置
- ・ アユを誘い込みやすい入口
- ・ 損壊を防止するための蓋

【材 料】

杉角材(8cm×8cm)
L字状溝型鋼
木製くさび
長ネジ
自然石・土嚢
竹（止水柵用）など

設計・作図： 中筋祐司



木組み階段式箱型魚道の設置法

止水柵の竹
は最初に設置



角材で堰上げ
プールに投石

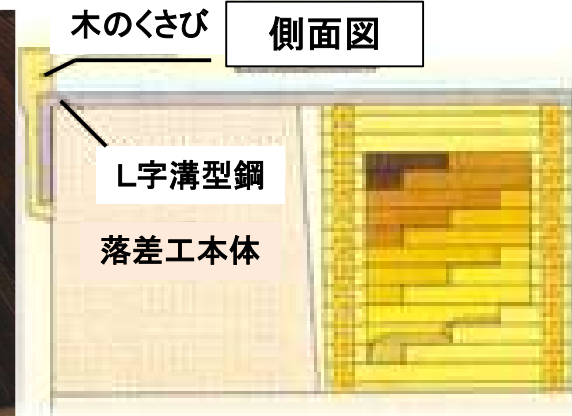


木のくさび

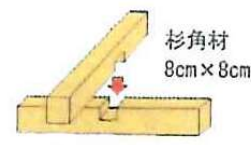
側面図

L字溝型鋼

落差工本体



溝型鋼で固定
蓋の設置



完成



設計・作図： 中筋祐司

魚道づくりの成果 ～アユの遡上実績～



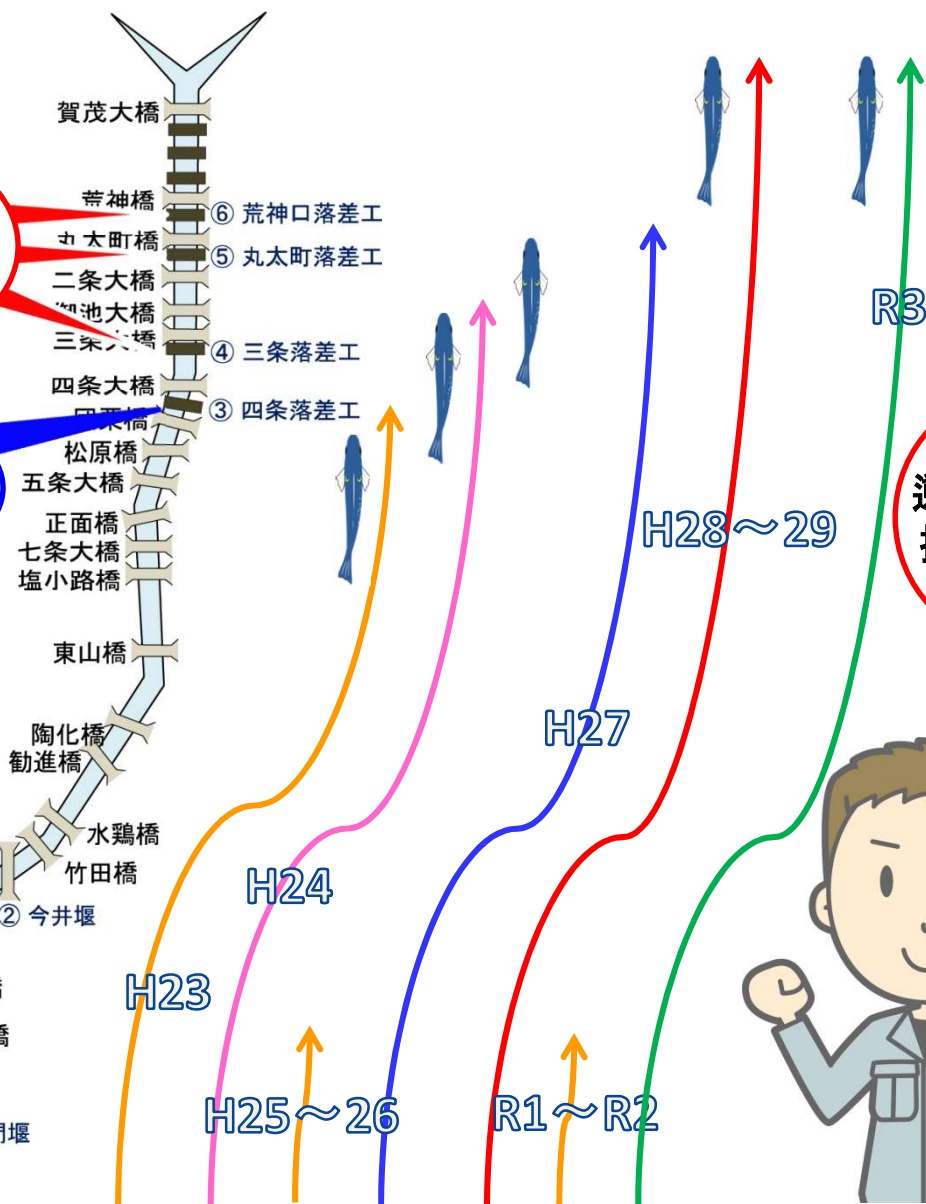
H25～R1設置

H25設置
H26以降不要
(魚道不要と判断)

H24～26設置
H26以降不要
(土砂堆積で不要)

H23～25設置
H26以降不要
(堰堤上部撤去)

※H25-26とR1は鴨川への遡上がほとんどなかった。R2は7月の増水で魚道が大破。

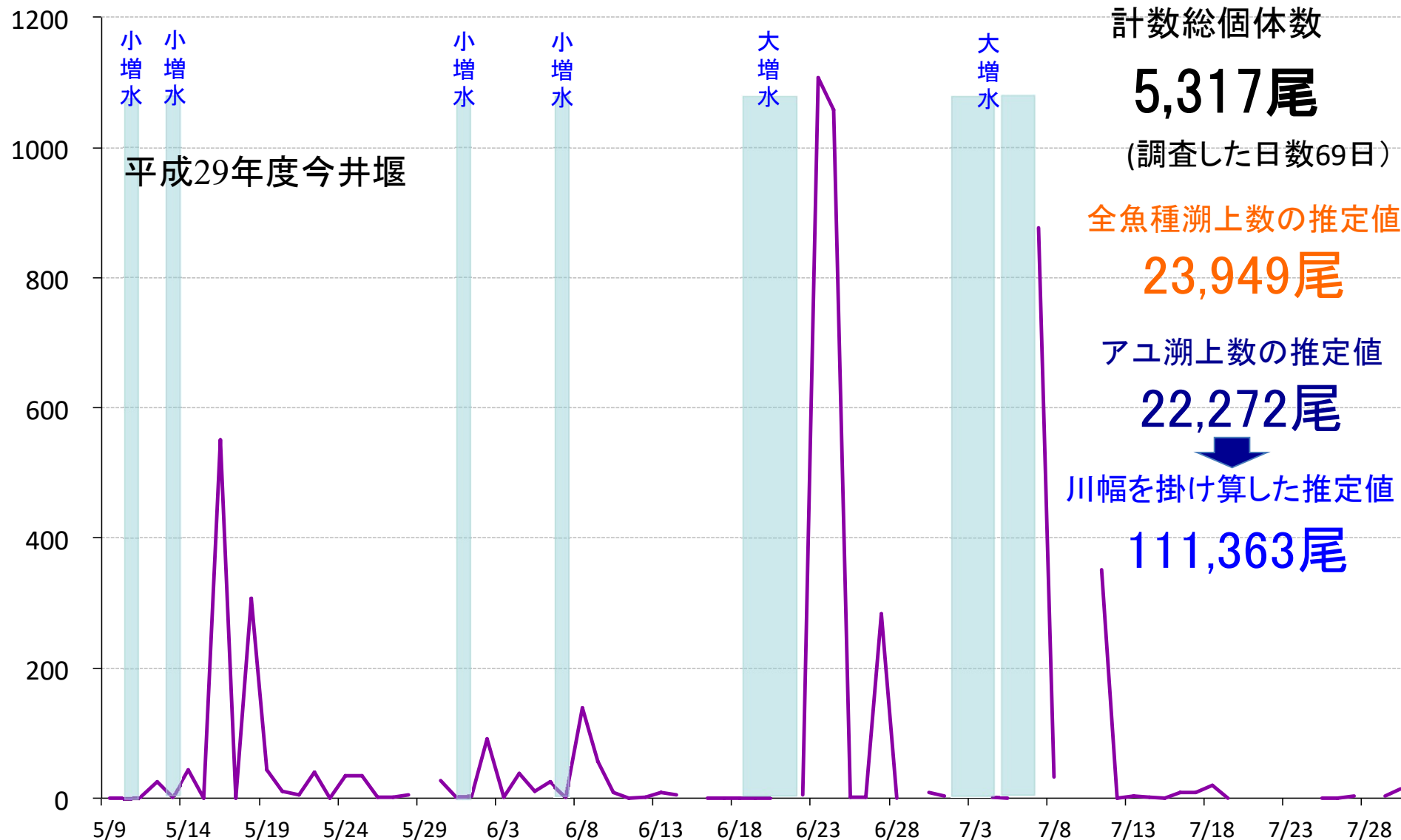


遡上範囲が
拡大した！



魚道づくりとネットワークづくりの成果

アユ等の遡上数連続計測を実現→遡上数推定が可能となった



魚道づくりとネットワークづくりの成果

遡上数推定値の経年変化		全魚種推定量	アユ推定量	アユ割合
平成23年	龍門堰魚道	21,858尾	19,672尾	90%
平成24年	龍門堰魚道	32,407尾	29,490尾	91%
平成25年	龍門堰魚道	7,351尾	2,328尾	32%
平成26年	今井堰	2,463尾	600-800尾	28%
平成27年	今井堰	11,595尾	9,868尾	84%
平成28年	今井堰	85,688尾	72,925尾	85%
平成29年	今井堰	119,745尾	111,363尾	93%
平成30年	今井堰	24,965尾	22,696尾	91%
令和元年	今井堰	4,240尾	848尾	20%
令和2年	今井堰	14,870尾	11,896尾	80%
令和3年	今井堰	24,560尾	17,198尾	70%

ネットワークづくり

・

淀川水系の生き物などの現状や活かす会の取組内容
とにかく知ってもらおうこと！

発信

パンフレットの
作成・配付

フォーラム
開催・参加

川魚の
魅力発信

Web
発信

マスメディア
対応

こうした活動を行える多様な体制づくり

パンフレット等の作成・配付



デザイン・作図： 中筋祐司

フォーラムの開催

**京の川の恵みを活かす会
活動中間報告会**

鮎

京の川の恵みを活かす会（平成23年5月17日設立）は、天然アユ、ゴリ（カワヨシノボリ）、ハエ（オイカワ）、エビ類、モクズガニ、水生昆虫などたくさんの生き物が棲める川づくりとその恵みを活かすための活動に取り組んでいます。今年も昨年に引き続き、鴨川の三条落工、丸太町落工、荒神口落工に仮設魚道を設置し、これらを通する魚類の調査、ゴリの繁殖床造成実験と仔稚魚の分布調査、鴨川に生息するアユの生態調査、鴨川に生息する魚類の分布調査などを実施しています。今年は7月初旬の鴨川前線によって鴨川水系の河川も大増水しました。その後、大阪湾から鴨川まで遡上した天然アユやサツキマスはどうしているか？鴨川に生息するゴリたちは繁殖できたのか懸念されることです。そこで、これまでにわかったことを関心のある皆様にご報告するための中間報告会を開催することになりました。

日 時 平成30年8月10日（金）午後4時00分～午後7時50分
場 所 バタゴニア 京都（京都市下京区四条通立売東町23番地）
主催者 京の川の恵みを活かす会（略称：活かす会）

プログラム
 16:00 開催趣意説明 京の川の恵みを活かす会の活動概要 竹門康弘
 16:10 活動報告 本年の活かす会の魚道づくり 中筋祐司
 16:20 活動報告 本年の鴨川における石積み魚道の設置状況 京都府農林水産部水産課
 16:30 活動報告 本年の鴨川今井堰における遡上調査の状況 桂 利三
 16:40 活動報告 本年の鴨川今井堰における天然アユの遡上調査結果 竹門康弘
 16:50 活動報告 本年の鴨川におけるアユの生息状況 澤 健次
 17:00 活動報告 桂川3時井堰の魚類遡上と遡上（遡み上げ）状況 磯部和雄
 17:10 活動報告 本年の鴨川におけるサツキマスの遡上状況 藤村幸次
 17:20 休憩
 17:40 活動報告 どんな河川景観が鴨川の魚類多様性を支えているか？ 横田康平
 17:50 活動報告 出町柳におけるカワヨシノボリ（ゴリ）の繁殖場と仔稚魚生育場 横田康平
 18:00 活動報告 木津川におけるアユの生息状況 谷口順彦
 18:10 活動報告 桂川3時井堰におけるサイフォン魚道越行経過 澤井健二
 18:20 活動計画 活かす会の今後の活動計画と河川環境改善のための提案 竹門康弘
 18:30 意見交換会
 19:50 閉会

申込みは不要です。会場は50席になりますので、お早めにお越しください。
 E-mail: 京の川の恵みを活かす会事務局 jkusu.kai.aki@gmail.com

京都の川と大阪の海のつながり再興

川の恵みを活かすフォーラム

第1部 川の恵みを活かす 報告会

令和元年 **10月27日**（日）
 10:00～17:00
 京都大学防災研究所
 宇治川オープンラボラトリー
 新館セミナー室

京都の川と大阪の海の大切なつながり

【講演】午前
 ① 京都の天然アユを増やすために大阪湾で取り組むべき課題
 中筋 祐司（京都市産業観光局農林部課長、活かす会サポーター）
 ② 淀川の流量が天然海産アユ個体群に及ぼす影響と対策
 瀬口 雄一（京都大学工学部研究科博士課程、株式会社建設技術研究所大阪本社、活かす会サポーター）

【報告】午後
 ① 国土交通省淀川河川事務所
 ② 芥川倶楽部、摂南大学
 ③ 桂川流域ネットワーク、保津川漁業協同組合
 ④ 京淀川漁業協同組合
 ⑤ 賀茂川漁業協同組合
 ⑥ 木津川グループ河川レンジャー、やましろ里山の会

【討論】
 川の恵みを増やし活かす流域連携の実践に向けて
 竹門 康弘（活かす会代表、京都大学防災研究所准教授）

【講評】
 京都の川と大阪の海の大切なつながり
 谷口 順彦（活かす会代表、淀川河川レンジャー）

参加費：報告会 10/27 無料
 ※会場に飲食店が隣接しているため、昼食は各自持参願います。
 食味会 11/2 2,000円（食材代及び送料別）
 ※雨天決行です。当日、会場で状況の公表とビールの販売をします。
 申込み：氏名、所属、連絡先、参加する日を明記の上、
 京淀川の恵みを活かす会事務局 E-mail: jkusu.aki@gmail.com または
 京都府産業観光局農林部課長 FAX: 075-221-1253 へお申込みください。
 締切日：会場及び食味会の都合上、それぞれ先着120名となります。

主 催：京の川の恵みを活かす会（略称：活かす会）
 ※活かす会は、学識者、漁業関係者（漁協、漁民、漁船）、市民団体（桂川流域ネットワーク等）、行政（市町村、府県）等が連携し、川の恵みを活かすための活動の推進、サツキマス、ハエ、ゴリなどの調査・保護・繁殖に必要となる環境づくりに取り組む組織です。

共 催：一般社団法人日本教育者協会、NPO法人やましろ里山の会、
 芥川・ひとと魚のやさしい川づくりネットワーク（総裁：芥川倶楽部）
 後 援：京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー、
 国土交通省淀川河川事務所河川事務所、上桂川漁業協同組合、
 大津川漁業協同組合、大淀川漁業協同組合、摂南大学エコシビル部、モッパン石巻、
 建設局、京都府産業観光局農林部課長、TEL: 075-222-3352

第2部 川の恵みを活かす 食味会

令和元年 **11月2日**（土）
 11:00～17:00
 京都大学防災研究所
 宇治川オープンラボラトリー
 屋外中庭

“京都”と“大阪”の川魚文化再興

【京都の川の食材メニュー】
 ・アユ（鮎）の塩焼き
 ・ナマス（鰻）の蒲焼き
 ・コイ（鯉）こく
 ・ゴリ（鮒）、ヒワマス 他
 【大阪 淀川河口の食材メニュー】
 ・べっこうシジミ（蜆）汁
 ・天然うなぎ（鰻）の蒲焼き
 ・しらす釜揚げ

※その他 おにぎり 等

FAX
075-221-1253

氏名 (漢字・平仮名)	氏名 (漢字・平仮名)
所属	所属
報告会10/27	食味会11/2

京都府産業観光局農林部課長 075-221-1253
 淀川河川事務所 075-221-1253
 淀川河川事務所 075-221-1253
 淀川河川事務所 075-221-1253

デザイン・作図： 中筋祐司

川魚の魅力発信

食味会の開催



川魚を用いた商品開発



魅力発信の場の形成(納屋町商店街)



Web 発信

京の川の恵みを活かす会

- top
- 活かす会とは
- 活動報告
- 活動計画
- 参加方法
- お知らせ

京の川の恵みを活かす会

連絡先

〒611-0011
 宇治市五ヶ庄
 京都大学防災研究所
 水資源環境研究センター
 竹門研究室
 TEL：0774-38-4253
 FAX：0774-38-4036
 E-Mail：ikasukai.all@gmail.com

FAXをされる場合は、
 京都大学防災研究所
 水資源環境研究センター
 竹門 敬付
 京の川の恵みを活かす会事務局宛

と明記していただくよう
 お願いいたします

京の川の恵みを活かす会について

京の川の恵みを活かす会は、鴨川流域の自然の恵みを豊かにし、これを活かしていくことに賛同する関係団体・個人で構成された連携組織（ネットワーク）です。
 大阪湾から鴨川の上流まで天然アユがのぼれる流域環境を目指して、魚道の設置や調査、勉強会などを行っています。

**** 新着情報 ****（2017年12月3日更新）

木津川に中聖牛が設置されました！

2017年12月2日、木津川に中聖牛3基の設置が完了しました。玉水橋下流の右岸国道24号橋の堤防上から斜路を下っていくと中聖牛の設置場所へ行ることができます。竹筋籠や中聖牛の製作総覧研習会に出席できなかった方も、一度見に行ってください。来年の出水順にまわりの砂州地形がどう変わるかが見ものです。

マスメディア対応



東京新聞(2017.11.26)



流域連携の取組



ネットワークづくりの成果

【設立当初】

業種	内容
漁業者	・ 京都府 1団体
市民団体	・ 京都府 3団体 (ネットワークを含む)
研究者 (学生含む)	・ 京都大学
森林組合	・ 京都市 1団体
土地改良区	・ 京都府 1団体
行政団体	・ 京都府、京都市
民間団体	・ 京都水族館

【現在】

業種	内容
漁業者	・ 京都府 4団体 ・ 大阪府 1団体
市民団体	・ 京都府 7団体 ・ 大阪府 3団体 (ネットワークを含む)
研究者 (学生含む)	・ 京都大学 ・ 龍谷大学 ・ 摂南大学 ・ 大阪商業大学 ・ 京都府立大学
森林組合	・ 京都市 2団体
土地改良区	・ 京都府 1団体
自治体	・ 京都府、京都市 ・ 大阪府、高槻市 ・ 淀川河川事務所
民間団体	・ 日本釣振興会 ・ ダイビングショップ

課題

これまで複数の民間団体に資金や労働力の提供等のお願いをしてきたが、連携が不十分。

今後の課題と方針

活動内容と組織の課題

河川環境改善の方針

- ・ 連続性以外の環境改善
- ・ アユ以外の川の恵みも...
- ・ 河口域・沿岸域の環境改善

川の恵みの利活用の課題

- ・ 川魚を食べる機会

川の自然を気遣う暮らしを啓発する課題

- ・ 川の自然の価値の伝え方

組織としての課題

- ・ 流域連携の推進
- ・ 民間団体との連携
- ・ 行政による助成資金は継続性

今後の課題と方針

活かす会の今後の方針

河川環境改善の方針

- ・ 大阪湾沿岸団体と連繋した調査
- ・ アユ以外の魚の生息繁殖状況調査
- ・ 伝統工法による河床の生息場改善

川の恵みの利活用の課題

- ・ 川魚食文化普及の機会創出
- ・ 食味会等の活動継続

川の自然を気遣う暮らしを啓発する課題

- ・ 市街地の飲食店等との連携
- ・ 学校・教育機関との連携

組織としての課題

- ・ 流域連携の推進に向けた取組継続
- ・ 民間団体との連携による資金源確保

ご静聴ありがとうございました



京の川の恵みを活かす会